

### 未来に向かって その9

これからの学生は、何を契機として、何を目途に、どこをフィールドとして、いつまでどのようにどんな方法でどのようにして学ぶのかが常に問われると考えます。漠然として時を過ごす事も大切な場合があることを否定しませんが、それより、基本的な軸をブラさずに、遠き着地点を見据えながら、当面の解決すべき目標をクリアしていく時間が大切であります。

斎藤孝明治大学教授は、そのために必要な力として、まねる(盗む)力、段取り力、コメント力(要約力・質問力)の普遍的な基礎力として位置づけ、本を大量に読んで、要旨をつかむ力の訓練を上げています。私にとって、毎日の校長便りの作成は、この大きな二つを具現化したものだとも言えます。

始めるときには意識しなくても、継続させるための方法を考えることによって、自然とこの二つの力に行きつきました。結局何を言うのか、人は何を言っているのか、言うためにどのような順序を踏むのか、そのことによってどんな結果をもたらすのかを考えることは、とても重要なことでした。また、その力は、学校経営や教育の実践にも応用できました。

具体的に言うと、野球に例えてみますと、基本であるキャッチボールは、他人がどのように行っているかを様々な角度から見て、やってみて、どうあるべきかという観点からもう一度考え、またやってみることが大切です。捕るという動作の時には、手の動きと同様にどちらの足でとりに行くのか、次に投げるためにはどのような捻転と片や手首の動きがいいのか、投げてからどうすることが次に捕ることにつながるのか、不意にやってくる予想外の事態にどう対処するかという動作の連続におけるポイントの意識化を図り、短いコメントとして残すことにより、次の日につながるのです。

走るという動作は何のために行われるのか、スタートはどちらの足からなのか、バッテングの動きにおいて、その動作とどうつながるのかなど考えることにより、技術は発展すると考えます。

そして、結局何なのかを探る連続が向上という名の結果になるとも言えます。この実践があると、どのようにお粉会うことが結果につながるのかという考え方として身につく術となり、学習におけるインプットの状況や、アウトプットの方法にもつながるはずです。

練習試合におけるポイントは何か、本番におけるポイントは何か、休養や食事の重要性はどこにあるのか、組織的なチーム力はどのように向上すべきかという整理が、先を読む力にもなり、風を読む力にもなるでしょう。